

ヒューマンウェアインターンシップ報告書

1 / 2

インターンシップ体験記 （海外インターンシップの場合は英語で記入）

アカデミア、非アカデミアといった従来の枠ではなくその狭間で博士や研究者を社会と繋げる役目を果たしたいという夢を持っており、兼ねてから異分野での就職を志望していました。

実施先の選定基準として、研究開発型ベンチャーなど研究の事業化、博士のキャリアや教育というキーワードを考慮した結果、シンクタンク業界は博士や修士卒も比較的多く在籍し、官公庁等への科学技術や学術、研究開発環境等に関わる政策提言が可能、研究開発型ベンチャーや博士、研究者の課題についても直接的にリサーチ可能であることなどがわかりました。

シンクタンクと言っても、企業ごとに顧客が異なることもあり、官公庁などの政府系、銀行などの金融系、中小企業、製薬等の専門的な会社を扱うなど幅広くあり、私の興味の軸と照らし合わせた結果、株式会社価値総合研究所に行き着きました。

準備段階では正規のインターンシップの枠組みがなかったため、産学共創本部の松尾先生のアドバイスを受けながら、受け入れの依頼書を作成し、自分の研究や強みとリンクさせなぜシンクタンクでなぜ株式会社価値総合研究所なのかを明確にし、自分の強みやスキルをどう転用するかだけではなく、そこで具体的にどんな業務をやって、どのように成長したいかと言った点を意識できるような文章作成に努めました。

株式会社価値総合研究所ではパブリックコンサルティング事業部にて、地理空間情報の利活用、大企業とベンチャー企業の連携に関わる調査業務、宇宙科学関連セミナーの運営・開催などの業務に携わりました。うまく仕事を進めるにはコミュニケーションが重要で、どのような意図でその仕事をするのかを明確にしてから動く必要がありました。アウトプットをイメージし、プレゼンであれば誰にどのような目的でプレゼンするのかによって資料の作り方、話し方など全て変わってきます。またお客様への納品期限や業務時間など制約の中でどうやってタスクを完了させるか考え、単純な事務作業でもやり方を工夫して時短することが必要と言ったことを学びました。

シンクタンクでのリサーチ業務では、ベンチャー企業に関わるものを扱ったので、研究開発型ベンチャーや研究者との関係もあり、研究にも少なからずリンクした。この観点での仕事に非常に魅力を感じたので、これからの活動としては特許事務所、ベンチャーキャピタル、コンサルティングファーム、産学の知財、オープンイノベーションの部局など多方面からベンチャーに関わりキャリアアップを狙いたいと考えています。この一貫として自らがベンチャー起業を経験するという事も視野に入れています。ヒューマンウェアでの単位にもなりますし、輝く場所が少ない、輝かせ方が分からないという環境面の問題、自分を輝かせるキャリアの選択肢を持っていないという問題から、現在思うように博士取得者が社会で輝けていないと感じているので、何より研究者のスキルアップやキャリアに寄り添った観点でビジネスの経験をしてみたいと考えています。

研究室との大きな違いとしてはチームで仕事をする事、お客様がいることの2点が挙げられると思います。お客さんから意図を汲み取って、チーム全体で進捗や予定等をこと細かく共有しながら同じ方向で仕事を進めるのは意外と難しく、個人プレーをすると全く価値のない成果物ができてしまうと感じました。やはり社員の方やクライアントとのコミュニケーションが一番重要ではないでしょうか。

週末は他企業のインターンシップに参加し、中高生の学会（サイエンスキャスル <https://s-castle.com>）にポスター審査補助として参加したり、ベンチャー企業の経営者に自らの活動をプレゼンしたりする活動をしました。またベンチャー企業や特許事務所訪問など HWIP のインターンで扱った知財やベンチャーに関わる分野の人々にコンタクトし、今後のキャリアを考えるきっかけになるような機会を作ることができました。趣味では東京モーターショーなどにも参加しました。ヒューマンウェアからの日当が月額 5000 円の支給、インターンシップ実施先からは交通費の補助とアルバイト代の支給のみだったため、ホテル代を支払うと実入りはほぼ無くなるので注意が必要でした。自炊もしくは東京在住の知人や先輩を訪問し、キャリアについての相談や現在のお仕事についてお話を伺いながら会食することが多かったと思います。またインターン中はメールの見逃しが多いのでタイムマネジメント等には要注意でした。